

川崎 美代子

所属大学：佐賀女子短期大学 キャリアデザイン科
県内インターンシップ先：認定 NPO 法人地球市民の会
留学先：バンクーバー（カナダ）
留学期間：2017/9/11～2017/12/25（2年次）
受入機関名：ILAC、日経プレイス



活動概要と成果

○2017/9/11-2017/12/1@ILAC

留学中は語学学校 ILAC で英語を学びながら、留学生を対象にアンケート調査を行なった。カナダは移民や留学生の受け入れに積極的であり、バンクーバーは世界中のたくさんの留学生が学んでいる。この調査は留学生の生活の満足度を調べ、佐賀県に暮らす留学生の生活の満足度に繋げるためである。調査方法は、紙媒体の全 17 問の質問で、1) 基本情報、2) 生活満足度（交通、食生活、学習）、3) 人・コミュニティとの関わりについて聞き込み形式で行った。被験者が質問を理解していない場合は、簡単な言葉に言い換えた。調査場所は、公共機関（図書館）、大学内、デパート、ダウンタウンのストリートなどの、学生が集まりやすい場所で行った。この調査には男性 40 名、女性 57 名、計 97 名の留学生からの協力を得た。集計した結果、性別や住む環境の違いによる生活満足度は関連性がなかった。また地域コミュニティや学校のイベントに参加する留学生の留學生活の直接の満足度に関連していないことが分かった。しかし、人との関わりについて、自国以外の人との関わりが一番高い留学生の生活満足度に非常に高い関連性を示していた。また、交通、食生活に満足している留学生ほど、留學生活に満足していた。この結果では、地域コミュニティやイベントなどの参加することが留學生活満足度に繋がっていない反面、他国の人との関わり多いことが満足度に良い影響を与えていることから、留学生同士が深い友好関係を築ける場を提供することが重要であることが分かった。帰国後は留学生と小学生を交流イベントを企画実施し、留學で学んだ人と人が歩み寄れる働くかけを行なうことができた。またインターンシップでは外国人コミュニティに補佐として参加し、佐賀で行われている活動に留學で得た知識を活かすことができた。

○2017/9/22-2017/12/25@日経プレイス

ボランティア活動が盛んなカナダで現地の活動を学ぶため日系プレイスにて約3ヶ月のボ

ランティア活動を行った。日系プレイスは日系カナダ人により設立された非営利団体である。美術館のギフトショップでアシスタントをさせてもらい、展示品の配送、商品作成などをおこなった。また、ファンレイジングパーティー、出版発表会、クラフトフェアなどのイベントには運営スタッフとしてスタッフの方と連携を取り進行の手伝いを行った。クラフトフェアでは親子を対象としたポストカード・折り紙作りを担当し、ボランティアスタッフも一緒に作りを手伝いながら地域の方とふれあえるイベントになった。今回のボランティアでは特に地域住民の方と接する機会が多く、イベントを通してコミュニケーション力・企画力をつけることができた。また年齢や国籍関係なくお互いに助け合うホスピタリティ精神を学ぶことができた。

日本発信プロジェクト活動概要と成果

○私にもできる！Japan 発信活動！

ー実行したこと

Japanese Calligraphy（書道を書いて、配布）・折り紙（子供たちと折り紙作り）

Facebook, Instagram にて佐賀の祭りの紹介・日本料理

ー成果・気づいたこと

日本から持参してきていた書道道具を利用して、漢字を書いて友人やボランティア先のスタッフにプレゼントをした。外国人に「日本語」の文字が人気で、名前を当て字にして書いた文字が人気で喜んでもらった。ボランティア先に来てくれた子供たちとは折り紙を一緒に作ったりしながら、交流もすることができて良かった。バンクーバーにはたくさんの日本食レストランがあり、ヘルシー嗜好の現地の方々には非常に人気があるようだった。今回は友人を招いて日本のそば、カレー、お好み焼きなどを作り日本の食文化の一部を紹介することができた。特に良かったと感じたことは、折り紙を通して子供たちと交流、料理をもてなしたこと。SNS に日本を紹介したりできるが、実際に Face to face で伝えたり紹介したりすることが、相手に伝える最善の方法だと感じた。反省点になるが、書道も友人の前で書いて実際に見てもらった方が喜んでもらったと思う。

留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

今回の留学では、語学留学ではなくプラス自己活動を行ったことで、自ら動こうとする自己発信力が身に付いた。留学中は、身近にいた家族や、留学まで支えてくれた学校の先生もい

ない。インターネットでつながることはできても基本は自分で考え行動に移さなければいけない。そのような状況で、自己活動であった留学生へのアンケート調査を行なった。留学中は、被験者へのインタビューがなかなかうまくできず自分の課題がどこにあるのかわからなくなってしまったのだ。そこで一度自分の活動を見つめなおし留学生活を3分の2を終えたころにアンケートの大幅な修正をした。アンケートを見直し内容を大幅に絞ったことで結果より多くの留学生に協力してもらえるようになった。この留学では、失敗を恐れず、自分で立ち上がる根気を身につけることができたし、自己を客観的に見、改善しようとする問題解決力を養うことができた。事後研修では、他のトビタテ生と留学経験を共有したことで、自分がこれからこの経験をどう活かすかが明確になった。

あなたにとっての留学の価値

私にとって留学の価値とは、人と人が出会いそれぞれの価値観を受け止めまた、自己を見つめ、触発さえながら学ぶ場であると思う。事後研修で、グローバルリーダーのお話に”縁”という言葉がでてきた。まさに留学は人と人の縁で、繋がった縁は丸い円で繋がり、交流を通しながら、実は大きな意味で国と国との友好関係を築いているのだと思う。今回の留学経験を活かし、何からも学ぶ精神を忘れず今後も縁を繋いでいきたい。